

令和 8 年度

「運営に関する計画」

大阪市立荻田小学校

令和 8 年 4 月

1

現状と課題

令和 7 年度大阪市小学校学力経年調査では、国語の平均正答率の対全国比が 0.84、算数の平均正答率の対全国比が 0.86 という結果であった。授業に対しての意欲や好感度は中・高学年とも、大阪市の平均と同等の教科(社会・理科・英語【外国語】)も見られるが、国語・算数では下回っている(国語 -17P、算数 -3P)。

また、令和 7 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、体力合計点が男女とも、大阪市や全国の平均を上回った。小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合は大阪市や全国平均を上回っている。引き続き、体育や体を動かす運動の取り組みを継続していく。

令和 7 年度の小学校学力経年調査の児童質問紙では、「学校に行くのは楽しい」と回答した児童は 83.0%であった。しかしながら、遅刻する児童や不登校児童は少なくなく、「学校の価値」を高め、それらを改善していくことが必要である。そのためには、本校の 3 本柱(国際理解、平和学習、インクルーシブ教育)にポジティブ行動支援を実践することで、より良い学校づくりを推進していく。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和 11 年度末の校内調査において「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 90%以上にする。(R7 84.4%)
- 令和 11 年度の小学校学力経年調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。(R7 83%)
- 令和 11 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を 3%にする。(R7 3.6%)
- 令和 11 年度の小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
- 令和 11 年度末の小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 87%以上にする。(R7 82.3%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 11 年度の小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和 7 年度より 0.03 ポイント(3%)向上させる。(R7 0.84)
- 令和 11 年度の小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和 7 年度より 0.03 ポイント(3%)向上させる。(R7 0.86)
- 令和 11 年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 40%以上にする。
- 令和 11 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査の体力合計点の対全国比の割合を男女ともに令和 7 年度より 0.03 ポイント向上させる。 ※全国平均を 1 とした時の割合 (R7 0.97)

- 令和１１年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８５％以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和１１年度の小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週３回以上と回答する児童の割合を７０％以上にする。
- 教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン」に基づき、時間外勤務時間について、月７０時間以上実施する教員をゼロにする。

２ 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を８０％以上にする。
- 小学校学力経年調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８５％以上にする。
- 校内調査において、不登校児童の在籍比率を３．３％にする。
- 小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７５％以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８３％以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より０．０１ポイント（１％）向上させる。
- 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より０．０１ポイント（１％）向上させる。
- 小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を３５％以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣調査の体力合計点の対全国比の割合を男女ともに令和７年度より０．０１ポイント向上させる。 ※全国平均を１とした時の割合
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８０％以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週３回以上と回答する児童の割合を７５％以上にする。
- 教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン」に基づき、時間外勤務時間について、月７０時間以上実施する教員をゼロにする。

３ 本年度の自己評価結果の総括

--

大阪市立荻田小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ○ 校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 ○ 校内調査において、不登校児童の在籍比率を3.3%にする。 ○ 小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向番号1、安全・安心な教育環境の実現】 ・児童がお互いに協力して活動する中で、認め合ったり自分のよさを伸ばしたりしながら、「学校は楽しい」と感じられるようにする。 ・体験学習や外部人材を招いた出前授業を取り入れることで、児童の生きる力の基盤を育む。	
指標 ・月1回以上の集会活動（月1回以上 8月・3月を除く）やたてわり班活動、クラスでの当番活動を実施し、児童の自己有用感を育む。 ・各学年において、校外での体験学習を実施する。 ・外部人材（地域人材含む）を活用した出前授業を年間5回以上実施する。	
取組内容②【基本的な方向番号1、安全・安心な教育環境の実現】 ・いじめの未然防止・早期発見、早期対応の取組を組織的に行う。 ・いじめの早期対応における校内研修等を実施する。（いじめへの対応） ・児童どうしのつながりを増やす取組を行うとともに、不登校児童に対するアプローチを継続して行う。（不登校への対応）	
指標 ・児童が自分の気持ちを学習者用端末に入力する「心の天気」を毎日活用し、回答が気になる児童に確実に対応する。 ・いじめアンケートを学期に1回以上実施し、いじめの早期発見に努める。 ・高学年において非行防止教室を実施するとともに、道徳の学習や学級活動において、いじめ防止や集団育成の授業を年3回行う。	

取組内容③【基本的な方向番号 2、豊かな心の育成】 各学年において、互いにちがいを認め合い個性を伸ばす取組、国際理解、平和学習、インクルーシブ教育を行い、全体で共有する。 (国際理解・平和学習・インクルーシブ教育の推進)	
指標 - 国際理解、平和学習、インクルーシブ教育に関わる取組を全学年で実践する。 - 人権教育年間指導計画を作成し、取り組みの進捗状況や計画通り実施できているのかを部会で確認する。	
取組内容④【基本的な方向番号 2、豊かな心の育成】 ポジティブ行動支援を通して、児童が自己肯定感を高め、他者への理解や思いやりの気持ちが育つような取組を行う。(仲間づくり)	
指標 ポジティブ行動マトリクスに基づき、学期に1回スクールワイドポジティブ行動支援（SWPBS）を実施する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
・	
次年度への改善点	

大阪市立荻田小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○ 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント（1％）向上させる。 ○ 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント（1％）向上させる。 ○ 小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を35％以上にする。 ○ 全国体力・運動能力、運動習慣調査の体力合計点の対全国比の割合を男女ともに令和7年度より0.01ポイント向上させる。 ※全国平均を1とした時の割合 ○ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80％以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】 ・ 個に応じた指導を充実させ、基礎的・基本的な内容を確実に定着させる。 ・ 算数科において、基礎的・基本的な内容を定着させるため、指導方法の工夫をする。	
指標 ・ 朝の業間活動の時間において、繰り返し学習に取り組み、基礎的・基本的な内容を確実に定着させる。 ・ 全学年が年間1回、算数科において、基礎的・基本的な内容を定着させるため、ノート活用を中心とした研究授業を行う。	
取組内容② 【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】 ・ 授業の中で友だちと話しあう活動の場を設ける。（話しあう活動の機会の充実） 活動を振り返る機会を設けて、児童の考えが深まったことや広がったことを感じさせる。（自己肯定感の向上）	
指標 ・ 単元に1回以上、友だちと話しあう活動の場を設ける。 ・ 活動の後には、その内容や成果を振り返る機会を設ける。	
取組内容③ 【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】 ・ 自ら運動に取り組む児童を育成する。（体育学習の充実） ・ 学級でのみんなあそびや体育の時間を通して、体力向上への意識を高める。（運動意識向上）	

・ 手洗いをすることやハンカチ・ティッシュを持つことを習慣にできるようにする。 (規則正しい生活習慣) ・ 児童の発達段階にあわせた栄養指導を行う。 (食に関する教育の充実)	
指標 ・ 縄跳びや持久走の強調週間を年間 2 回以上設けて実施し、自ら運動する楽しさを味わう機会を増やす。 ・ トップアスリート等を招聘した出前授業を年 1 回以上実施する。 ・ 手洗い強調週間を年 3 回行う。また、せいけつ調べ（ハンカチやティッシュを持ってきているか等）を週に 1 回各学級で行う。 ・ 栄養バランスの良い食事について考えさせ、残さず食べようとする意識を高める。学年ごとに年 2 回栄養指導を行い、給食だよりと食育通信を各教室でも掲示する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市立荻田小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 ○ 小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週 3 回以上と回答する児童の割合を 75%以上にする。 ○ 教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン」に基づき、時間外勤務時間について、月 70 時間以上実施する教員をゼロにする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向番号 6、教育 D X (デジタルトランスフォーメーション)の推進】 ・ 朝の業間活動の時間にタブレットを使った学習やデジタルドリルに取り組むことを位置づける。 (個別学習の充実) ・ 双方向オンライン学習訓練を行い、児童が学校だけでなく家庭においても学習者用端末を活用できる環境を整える。 (ICT 教育の充実)	
指標 ・ 毎週水曜日と、隔週で月曜日をぐんぐんタイムとし、学習者用端末を活用する。 ・ 年間を通じて学習者用端末を活用できるよう、1 学期に双方向オンライン学習訓練日を設定する。	
取組内容②【基本的な方向番号 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・ 教職員での会議を精選し、パソコンでのネットワークを積極的に活用する。 ・ 紙媒体への印刷業務を減らし、I C T の活用や教材の共有化を図る。 (働き方改革の推進)	
指標 ・ 学校からの文書は、ミマモルメメールで配信する。 ・ スクールサポートスタッフとの連携を図り、印刷業務にかかる時間を削減する。 ・ 年間の時間外勤務時間を、昨年度より減少させる。 ・ ゆとりの日「ノー残業デー」を週に 1 回設定し、17 時 30 分までに退勤する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

